

明治時代の公立医学校

廃止の顛末 その三

西川 瀨 八

医制八十年史によれば、最盛期には三十校もあつた明治時代前期の公立医学校が、明治二十年九月の勅令第四十八号によつて、「府県立医学校ノ費用ハ明治二十一年度以降

地方税ヲ以テ之ヲ支弁スルコトヲ得ズ」ということになり、以後は仙台・千葉・金沢・岡山・長崎の公立医学校が官立となつた。そして地方自治体として財政的にゆとりがあつた愛知・京都・大阪の公立医学校だけが残つた。演者は第一・二報において埼玉県立医学校、群馬県医学校、栃木県医学校、茨城医学校、秋田県立医学校、山形県医学校の廃止の顛末について報告した。これらの六校については前四校は政治経済的理由で勅令第四十八号の発令を待たずして廃止されている。

弘前医学校は明治十年に設立され、一時青森に移つた

が、魚住完治医学校長の「(一)青森ハ土地卑湿、(二)海港ノ為メ風俗淫猥、(三)物価高し。弘前ハ皆是ニ反シ、(一)土地高燥、(二)飲水宜シ、(三)風俗宜シク海港ノ比ニアラズ、(四)物価二三割ノ下直也。従来ノ通弘前ヲ基礎ト決シ可然」との意見が認められて弘前に戻つたと青森県史第七巻に記されている。明治十三年五月に弘前に大火災があつたが、医学校は再建されている。ところが、明治十八年三月に廃止されている。その理由は明らかでない。

つぎに須賀川医学校について県立岩瀬病院百年史によると、明治四年に医学講義所を院内に設け、翌五年医学所ができ、十二年に須賀川医学校と改称されている。しかし十四年には福島に移転して福島医学校になっている。そして理由は明らかにできなかったが、勅令第四十八号が出るより早く、明治二十年三月に廃止となっている。

三重県医学校は明治九年五月に安濃郡塔世村公立病院内に設立され、同年九月に伊勢市の医学校を合併して明治十一年に校舎を新築している。しかし明治十九年三月に廃校となつてしまつた。

宮崎県医史上巻によれば、宮崎医学校は明治十二年一月

に創設された公立宮崎病院の付属施設として医学生を養成することになった。宮崎県政八十年史年表によれば同年五月に医学所は設置され、十五歳以上の生徒三十名を募集したということである。宮崎医学学校は乙種医学学校で、卒業後医術開業試験を受けて合格することが必要であった。この受験には中央の都会が勉強に有利で、済生学舎に入るとか東京で書生をする方が、宮崎医学学校で学ぶより能率がよかつたということ、経費の割に効率がよくなかつたこと、また優秀な人材は中退して軍人や政治家を志望するものが多くなつたことと、経済不況が明治十四年に始まり十七年に頂点に達し、地方税が国民の重荷となり、全国的に十七年頃には医学学校経営が困難となつた。このような理由で宮崎医学学校は明治十八年に廃校になつた。

上記の四校は明治二十年十月の勅令第四十八号の発令を待たずして廃校となつたが、つぎに記す三校は勅令によつて廃校とされたものである。

福井医学学校の沿革については、福井県議会史第一巻・第二巻、福井県教育百年史第三巻史料篇について記述すると次のとおりである。福井公立医学学校開校式は明治八年十月

十五日に挙行されている。この時に入学を許されていたのは五十八名であつた。さきに記したとおり、福井医学学校も経費がかさむためにしばしば廃校が論議されたが、その度に校費の復活が図られ、勅令の出た明治二十年度限り維持することとなり、明治二十一年三月三十一日限り廃止と決定した。

広島医学学校は広島大学医学部三十年史によれば、明治十年五月に公立広島病院の開設と同時に、その付属医学学校として設立され開校している。初代校長は吉村寅太郎であつた。内容は充実にいて十四年三月には第一回卒業生二十四名を出している。これらの卒業生は上京して開業試験を受けている。しかし明治十五年の「医学学校通則」の公布に伴い、甲種の医学学校として格付けされ、大学卒業生と同様に開業試験を受けずに開業免状が下付されることになつた。ところが明治二十年十月の勅令によつて廃校と決定した。この時までには創立以来十二年を経過し、この間養成された医師は四百九十余名という実績があつた（これには反論があり約一五〇—一六〇名ともいう）。

函館には明治六年八月頃に開設した医学学校があつたと函

館病院百二十年史にある。その後中絶再興の経緯があり、後には医学講習所となったが、勅令第四十八条で廃校となった。

明治二十年には公立医学校は十八校となっており、勅令がなくとも淘汰されたであろう。

(日大医学部公衆衛生学教室)

昭和十年改正の算術教育変更方針 とその後の初等・中等・数学・理科教育の改革ならびに大学・理科教育改正との関連性について

柴田 幸雄

小倉金之助先生の「数学教育の根本問題」の最初に次のようなコトバが記されている。一つはケーリーのコトバで「あらゆる数学の中で、あの驚嘆すべきユークリッドの比喩論ほど壮麗なものを多く見たことがない」であり、もう一つはペリーのコトバで、「私はユークリッドの比例論のために、我が生涯の貴重な時を多く失った」とあたかも価値観のちがう二つのコトバをみることができる。小倉氏が常に唱えてこられた実用数学の重要性がここにもうすでに表われているように思え、また現今大学における教養課程での自然科学教育(勿論ここに数学も含まれる)と専門課程